

第5回 被災構造体の復旧性能評価研究委員会  
復旧性を考慮した耐震設計法WG1 議事録(案)

日時：2006年5月18日(水) 17:30～19:30

場所：(社)日本コンクリート工学協会 会議室

出席者：衣笠秀行、白井伸明、中村 光、斉藤成彦、(牧 剛史)、(向井智久)

資料

No. FS-18-1-9 被災構造物の復旧性能評価研究委員会 目次案

審議内容

同日、先駆けて行われた親委員会(被災構造体の復旧性能評価研究委員会)に提出された資料(FS-18-1-9)に基づき、本WGが関係する部分(第2章および第5章)の執筆担当および、今後の活動方針についてディスカッションを行った。

・第2章「被害事例の調査分析」は、それ以降の章、損傷評価・制御(第3章)、補修・補強後の性能評価(第4章)、設計(第5章)につなげる内容である必要があり、全体と関連するが、もともと、本WG担当の第5章にあったものであり、WG1でコーディネートする必要がある。

・第2章は現案の土木と建築の被害事例というまとめ方ではなく、設計(WG1)、損傷評価・制御(WG2)、補修・補強後の性能評価(WG3)それぞれに関連する被害事例、というまとめかたもあるのではないか。→被災後の復旧は「損傷評価」、「補修・補強」、「その後の性能評価」が一つの流れで行われており、被害事例の分析において切り離さない方がまとめやすい。また、土木と建築特有の問題が多々あり、分けて扱った方が分析を行う上で有利である。

・第2章の土木の被害事例執筆にあたって、鉄道についてはWG2の稲熊委員、道路についてはWG2岡野委員のご協力をお願いする。

・5.3(2)「復旧費用・復旧時間の推定の考え方」については、WG3の勝俣委員にご協力をお願いする。

・報告書の原稿締め切りは本年末頃になると思われるが、WGの活動と平行する形で既に書けるところは先行して執筆を進め、秋頃にはおおよその形とすることを目標としたい。

・以上の審議をふまえて、執筆・コーディネート担当を以下のようにすることとした。

## 第2章

---

### 2. 復旧性が問題となった被害事例の調査・分析

#### 2. 1 土木（斉藤委員）

---

鉄道（稲熊委員（WG 2）にご協力いただく）

道路（岡野委員（WG 2）にご協力いただく）

---

#### 2. 2 建築（向井委員、衣笠）

---

## 第5章

---

### 5. 復旧性を考慮した耐震設計法

#### 5. 1 復旧性を考慮した耐震設計法の必要性（衣笠）

#### 5. 2 既往の耐震設計法における復旧性能の扱いに関する調査・比較

##### 5. 2. 1 国内の状況

(1) 土木（牧委員、中村副委員長）

(2) 建築（向井委員、衣笠）

##### 5. 2. 2 海外の状況（中村副委員長、白井委員長）

#### 5. 3 復旧性を考慮した耐震設計の枠組み

(1) 復旧費用と復旧時間に基づく耐震設計法の枠組（衣笠＋全員）

(2) 復旧費用・復旧時間の推定の考え方（勝俣委員（WG 3））

---

## 第6章

---

章内の WG 1 に関する「まとめ」の文章（衣笠）

---

その他

次回の開催日は後日メールにて調整する。

文責（衣笠）

以上